

和歌山大学教育学部附属特別支援学校 学校運営協議会

令和8年度第1回 7月3日（金）10:00～12:00

出席者:委員8名、事務局本校職員3名

次第

- 1 開会 学校長挨拶
- 2 学校運営協議会委員紹介及び本校教職員紹介
- 3 和歌山大学教育学部附属学校運営協議会の説明
- 4 会長・副会長の選出
- 5 学校の概要及び学校運営方針について
- 6 授業見学
- 7 報告・協議
 - ・本年度学校経営計画（案）について
 - ・意見交換（附属特別支援学校の今後について等）
 - ・その他
- 8 その他
 - ・今年度の学校運営協議会の開催日程
- 9 学校長挨拶 閉会

説明、報告・協議の記録

説明

●令和8年度学校の概要及び学校運営方針について

（校長より説明）

- ・和歌山大学教育学部附属特別支援学校の現状と課題
- ・和歌山県の特別支援教育状況、令和7年度特別支援学校高等部卒業生進路状況
- ・こらからの附属学校のあり方を考える会より
- ・令和8年度の学校運営方針 重点目標
 - 1 教育と研究（先進教育）
 - 2 人材育成（教師力・教育実習）
 - 3 地域連携・地域貢献
- ・学校経営計画について
- ・今後の活動計画について

報告・協議

●意見交換（各委員より）※授業見学及び感想等

林委員：学校運営協議会としての意見として、学校から大学へ意見を伝えていく。

- ・相手の表情を見てしかできないことがある。
- ・書き言葉と話し言葉のやりとりの違いなど学ぶことは多い。
- ・先生の言葉の使い方（てにおは 文法の正しい使い方等）見て、聞いて子供は学ぶ。まねる。先生の佇まいが大切。言葉の丁寧な使い方の大切さを感じる。

西委員：先生ってすごいなと改めて感じた。

- ・高等部音楽の授業で、楽器演奏や琴など去年のレベルよりはるかに高い次元の授業をされている。この１年での経過、指導に感心する。自分の想いを伝えられる言葉、受け取る側のスキルをあげる。
- ・今、A型作業所からB型作業所（冬野）の選択、事業拡大している。
A型は最低賃金が1045円であるが、その分、時間や作業内容、量など厳しく求められる。B型で金額を下げてその人の実態に応じた作業内容と賃金を出すかも含めて、利用者と相談しながら進めるがまた情報をください。仕事をどう提供するか考えている。

米田委員：学びを深めるために心を育てるために

- ・教員の対応力をあげる。子供同士をつなげる。人の意見から考える。
- ・一斉授業であっても、子供同士をつなげ、考える時間の確保や他者意識を育てる環境設定。

谷口委員：いつも子供の輝いている姿がある。人材育成はどの職場でも課題である。

- ・令和7年度から和歌山市の計画相談の福祉側の対応がおいっていない現状。
- ・A型作業所の認定が非常に厳しくなっている。
- ・子供や利用者の同じ目線で、多職種連携しながら実践を振り返りたい。

北岡委員：自分の想いを率直に言えることが、和附特のいいところ

- ・小学校、中学校から来られる先生がいるので、価値ある取組に対して、実践の中での特別支援教育の意味付けが必要となる。
- ・子供の何を見ているかを話し合うことも研究として面白いのでは。
- ・みはま支援では、地域の魅力ある人のリスト作りをする中で、ゲストティーチャーとして、ピザ窯づくりなど地域連携しているのも参考になるのでは。
- ・和歌山大学の学生も木曜日だと、動きやすいので、和附特の木曜生活に合わせて活動すると、より学生と生徒が共同作業等しやすい。また学生との交流会もいいのでは。特別支援の学生に限らず、観光学部の学生等授業の枠を超えて参画しやすいかも。
- ・センター的機能が課題でもあるので、コーディネーターの加配を大学に要

求してもいいのでは。

山路委員：地域の見守りで子供たちとの関係がある。7月には地域のラジオ体操やパルを活用した会議等している。

赤津委員：全学部の授業を見れてよかった。いつもは自分の子の授業参観だけなので。

- 中学部の電話の受け答えの授業参考になった。最近は携帯のみの家庭も多く、それもラインなど文字のやりとりですることもあり、電話で話し言葉を聞いてやりとりを考えることは大事と思う。
- 本人が困らないように先にしてしまうこともある。
- ラインとかで書き言葉で、相手に意図が伝わらない時もある。

